

# 2022年度決算・2023年度予算

上智学院の2022年度決算および2023年度予算が、5月24日(水)に開催された上智学院理事会、評議員会において承認されました。以下にその内容を紹介します、解説します。

## 2022年度 決算

### 【2022年度 決算の概要】

2022年度の事業活動収支決算は、予算対比で基本金組み入れ前当年度収支差額が1101百万円増加した一方、基本金組入額は888百万円増加したため、当年度収支差額は787百万円減少しました。また、資産売却などに伴う基本金取崩額が256百万円発生した結果、翌年度繰越収支差額は△11,328百万円となりました。

2022年度決算の特徴は、世界の経済情勢の変化に伴う支出の増加(エネルギー価格の高騰による光熱水費の増)と収入の減少(投資環境の悪化による受取利息・配当金の減)とともに赤字経営に陥っていた軽井沢セミナーハウスの売却処分が挙げられます。

予算と決算の比較を見ると、教育活動収支では、学生生徒等納付金や寮費収入等の付随事業収入等の収入が減少した一方、支出面で人件費や教育研究経費が減少した結果、収支差額は△978百万円となり、ほぼ予算どおりの結果となりました。教育活動外収支では、受取利息・配当金の減少により収支差額が1,041百万円となり、83百万円の減少となりました。特別収支は、特別収入が有価証券売却差額の発生等により89百万円増加する一方、特別支出が110百万円減少したことにより、収支差額は200百万円減の△591百万円となりました。

この結果、基本金組入前当年度収支差額は△528百万円となり、基本金組入後の当年度収支差額は△3,460百万円となりました。

次に財政状態を示す貸借対照表について説明いたします。

まず、資産の部における有形固定資産での大きな変動は、軽井沢セミナーハウス売却に伴う除却により△1,435百万円を計上したことです。また、特定資産では、第3号基本金の増額とともに、教育研究の財源を確保するため減価償却引当特定資産から他の特定資産に資金移動したことなどにより、差し引きで前年度から246百万円減少しています。その他の固定資産には収益事業元入金4,345百万円、信濃町アルベ国際学生寮の敷金58百万円が含まれています。この結果、資産の部の合計は、前年度末より1,780百万円減の164,467百万円となりました。

一方、負債の部では、施設設備にかかる新規借入はなく、2023年度に返済する短期借入金への振替により、長期借入金は993百万円の減となりました。

純資産の部では、基本金が2,677百万円増の153,135百万円、繰越収支差額は支出超過額(※)が3,204百万円増した結果、△11,328百万円となりました。

※当該年度に行ったキャンパス整備費用(1号基本金への組み入れ)及び教育研究の原資になる奨学金の積み増し(3号基本金への組み入れ)等について、学校会計ではこの形で計上している。

以下に、2022年度の事業活動収支計算書と貸借対照表をお示しします。

なお、詳細については、上智学院ホームページに掲載の「財務情報」をご参照ください。(掲載場所: トップページ>公開情報>事業計画書・事業報告書・財務状況(決算資料))

### 【上智学院】 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目	2022年度予算	2022年度決算	差異
学生生徒等納付金	18,748	18,587	161
手数料	988	974	14
寄付金	495	516	△22
経常費等補助金	4,150	4,248	△97
付随事業収入	925	725	200
雑収入	1,016	1,081	△65
教育活動収入計	26,322	26,131	191
人件費	15,338	15,213	125
教育研究経費	10,191	10,064	127
管理経費	1,754	1,833	△78
教育活動支出計	27,284	27,109	174
教育活動収支差額	△962	△978	16
受取利息・配当金	773	678	94
その他の教育活動外収入	450	461	△11
教育活動外収入計	1,223	1,140	83
借入金等利息	98	98	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	98	98	0
教育活動外収支差額	1,124	1,041	83
経常収支差額	162	63	99
資産売却差額	0	95	△95
その他の特別収入	136	131	6
特別収入計	136	225	△89
資産処分差額	927	813	114
その他の特別支出	0	4	△4
特別支出計	927	817	110
特別収支差額	△791	△591	△200
予備費	(226)	0	0
基本金組入前当年度収支差額	△629	△528	△101
基本金組入額合計	△2,044	△2,933	888
当年度収支差額	△2,673	△3,460	787
前年度繰越収支差額	△8,123	△8,123	0
基本金取崩額	0	256	△256
翌年度繰越収支差額	△10,796	△11,328	531

(参考)

事業活動収入計	27,681	27,497	184
事業活動支出計	28,309	28,024	285

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

※予備費の上段( )内は使用額、下段は残高です。使用額は使用した科目の予算額に加算されています。

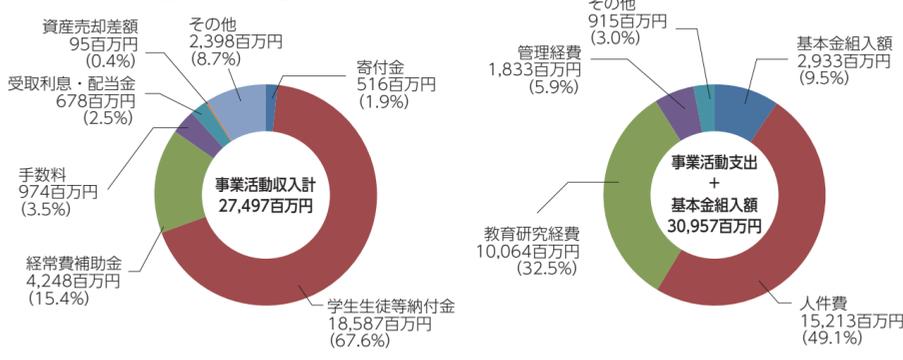
### 事業活動収支計算書とは…

当該会計年度の事業活動毎の収支の内容と均衡状態を明確にし、経営状況を表すものです(企業会計の「損益計算書」に似た性格を持つ計算書)。事業活動収支計算書では、「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」の3区分を設けており、経常的な収支(教育活動収支と教育活動外収支)と臨時的な収支(特別収支)の各区分の収支を把握することができます。また、基本金組入れ後の収支均衡の状態を明らかにします。学校法人は利益の追求を目的としていないため、学校法人に入ってきた事業活動収入は、すべて教育・研究に還元し、「当年度収支差額」が均衡していることを理想としています。

### 基本金とは…

学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な資産を継続的に保持するための金額であり、以下のとおり、第1号基本金から第4号基本金まであります。  
・第1号基本金… 設立時や規模の拡大若しくは教育の充実向上のために取得した固定資産の額  
・第2号基本金… 将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額  
・第3号基本金… 基金として継続的に保持し、運用する金銭その他の資産の額  
・第4号基本金… 恒常的に保持すべき資金

### 2022年度事業活動収支計算書



【上智学院】

### 貸借対照表

科目	年度			
	2022年度	2021年度	差額	(単位:百万円)
資産の部				
固定資産	153,851	156,619	△2,768	
有形固定資産	89,425	92,067	△2,641	
特定資産	58,917	59,163	△246	
その他の固定資産	5,508	5,389	119	
現金預金	9,778	8,540	1,239	
その他の流動資産	838	1,088	△250	
資産の部合計	164,467	166,247	△1,780	

### 負債の部

科目	年度			
	2022年度	2021年度	差額	(単位:百万円)
固定負債	15,907	17,046	△1,139	
流動負債	6,753	6,865	△112	
負債の部合計	22,660	23,912	△1,252	

### 純資産の部

科目	年度			
	2022年度	2021年度	差額	(単位:百万円)
基本金	153,135	150,458	2,677	
第1号基本金	132,485	131,855	629	
第2号基本金	2,213	2,496	△283	
第3号基本金	16,563	14,233	2,330	
第4号基本金	1,874	1,874	0	
繰越収支差額	△11,328	△8,123	△3,204	
翌年度繰越収支差額	△11,328	△8,123	△3,204	
純資産の部合計	141,807	142,335	△528	

### 負債の部及び純資産の部合計

科目	年度			
	2022年度	2021年度	差額	(単位:百万円)
負債及び純資産の部合計	164,467	166,247	△1,780	

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

### 貸借対照表とは…

期末(年度末)における資産・負債・純資産の額を把握し、財政状態の健全性を表すものです。

## 2023年度 事業計画

### 【はじめに】

学校法人上智学院は、高等教育部門・中等教育部門の各学校に係る中長期の将来構想として、2019年度からは2023年度を対象期間とする「ランド・レイアウト2.1」(以下G L 2.1)およびその実施計画であるアクションプラン(以下、A P)を構想し、これに基づく年度ごとの事業計画を立て実施することで、法人の設置する各学校の運営を行ってまいりました。

しかしながら、特にコロナ禍を経て加速的に進んだ社会情勢の変化に対応する必要から、G L 2.1は当初想定より一年繰り上げた2022年度までの運用とし、この度、2023年度から2030年度を対象期間とする新たな中長期計画「ランド・レイアウト3.0—2030に向けて—」(以下G L 3.0)を策定いたしました。

G L 3.0では、部門ごとに2030年までに達成を目指す様々な目標を掲げ、それを整理して取り纏めた「2030年に向けた『10』のコミットメント」として具体的に提示しています。本「コミットメント」に示したように、デジタル・グリーン環境・サステナビリティなどの技術革新・事業変革が目覚ましい時代にあっても、本学院が具現化すべき基本理念を堅持しつつ、学生・生徒・教職員が一体となって教育研究を着実に推し進め、社会・地域への貢献も果たしていくことを目指してまいります。

このG L 3.0の初年度に実施する単年度計画として、以下の通り2023年度事業計画を策定いたしましたので、ここに公表いたします。

引き続き、本学院の各設置校の教育研究社会貢献の諸活動に一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

### 上智学院の部門計画および2023年度事業計画

- 持続可能な社会に貢献し、社会的責任を果たすための体制を強化する
  - カトリック・イエズス会教育の継承、浸透
  - 上智学院および設置校の歴史の理解、継承、浸透
  - 経営判断の精緻化( I R活用型マネジメントの徹底および柔軟かつ迅速な意思決定の実現)
  - ガバナンスの強化と、コンプライアンスおよびリスクマネジメントの徹底
  - ステークホルダーとの連携強化(繋がりをも強める継続的かつ効果的なコミュニケーションの実現)
- 豊かな学びを支える安心・安全・快適なキャンパス環境を整備する
  - 全ての人々に寄り添い、ひとりひとりを大切に作る組織・風土の実現
  - インクルーシブかつサステナブルな学校・職場環境(施設・設備等)の整備(ラウダート・シを意識する)
- 教育研究の持続的発展を可能とする財務基盤をより一層強化する
  - 奨学金等基金、キャンパス整備、戦略的な教育研究事業に対する財源の確保
  - 財政基盤強化を可能とする経常収支差額の確保(収支バランスの最適化)
- 組織力を高める人事政策を実行する
  - 各設置校における教育・研究力をさらに高める新しい組織・制度の整備
  - 将来的な財務状況を踏まえた人事計画の策定と実行
  - 中等教育部門と高等教育部門との連携を深める

※詳細な事業計画については、上智学院ホームページに掲載の「事業計画書」をご参照ください。(掲載場所: トップページ>公開情報>事業計画書・事業報告書・財務状況(決算資料))

## 2023年度 予算

### 【2023年度予算の概要】

2023年度予算は、前年度予算に比べ、事業活動収入は679百万円の増加、事業活動支出は134百万円の減少となりました。収入が増加した要因は、学生生徒等納付金および寄付金の増収によるものであり、支出が減少した要因は、昨年度計上した保有資産の売却による特別支出が今年度はなかったことによるものです。基本金組入前の収支がほぼ均衡することから、基本金組入後の当年度収支差額は支出超過となり、厳しい状況となる見込みです。

喫緊の課題として取り組んできた学生生徒等納付金の安定的な確保を図るための戦略や外部資金獲得策の積極的な推進、人件費支出の抑制などについては継続的に取り組みつつも、教育・研究の機会を確保するために必要な事項を優先するなど、柔軟な予算の執行に努める所存です。

以下に2023年度の事業活動収支予算書をお示しいたします。詳細な予算内容と事業計画については、上智学院ホームページに掲載の「財務情報」をご参照ください。(掲載場所: トップページ>公開情報>事業計画書・事業報告書・財務状況(決算資料))

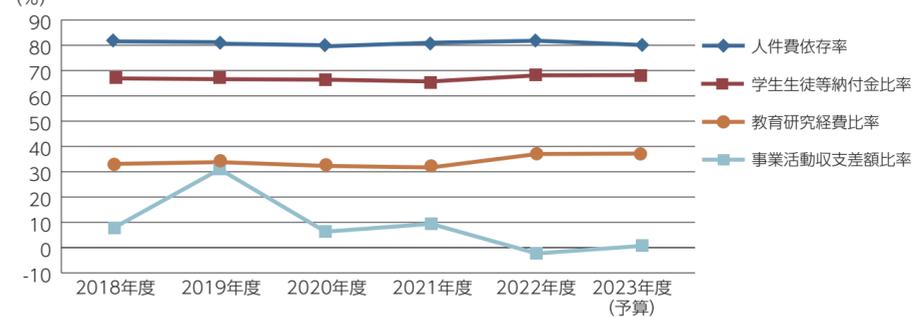
【上智学院】

### 2023年度 事業活動収支予算書

(単位:百万円)

科目	2023年度				科目	2023年度			
	2023年度	2022年度	差異	(参考)		2023年度	2022年度	差異	(参考)
学生生徒等納付金	19,245	18,748	497		資産売却差額	0	0	0	
手数料	988	988	0		その他の特別収入	131	136	△5	
寄付金	718	495	223		特別収入計	131	136	△5	
経常費等補助金	4,184	4,150	34		資産処分差額	318	927	△609	
付随事業収入	906	925	△19		その他の特別支出	0	0	0	
雑収入	1,018	1,016	2		特別支出計	318	927	△609	
教育活動収入計	27,060	26,322	738		特別収支差額	△186	△791	605	
人件費	15,407	15,338	69		予備費	225	225	0	
教育研究経費	10,264	9,966	298		基本金組入前当年度収支差額	185	△629	814	
管理経費	1,878	1,754	124		基本金組入額合計	△1,960	△2,044	84	
教育活動支出計	27,549	27,058	491		当年度収支差額	△1,775	△2,673	898	
教育活動収支差額	△489	△734	245		前年度繰越収支差額	△10,037	△8,123	△1,914	
受取利息・配当金	719	772	△53		基本金取崩額	192	0	192	
その他の教育活動外収入	450	450	0		翌年度繰越収支差額	△11,619	△10,796	△823	
教育活動外収入計	1,169	1,222	△53						
借入金等利息	83	98	△15		事業活動収入計	28,360	27,681	679	
その他の教育活動外支出	0	0	0		事業活動支出計	28,175	28,309	△134	
教育活動外支出計	83	98	△15						
教育活動外収支差額	1,086	1,124	△38						
経常収支差額	597	388	209						

### 主たる比率の推移(2018~2023年度)



- 人件費依存率=人件費/学生生徒等納付金
- 学生生徒等納付金比率=学生生徒等納付金/経常収入(教育活動収入+教育活動外収入)
- 教育研究経費比率=教育研究経費/経常収入(教育活動収入+教育活動外収入)(教育活動収入+教育活動外収入)
- 事業活動収支差額比率=基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入